

中心市街地まちづくりビジョン



令和5年5月
中津川市

目次

1. 中心市街地まちづくりビジョン策定の背景
2. ビジョン策定に向けた取組み
3. 取組みから見えてきたこと
4. ビジョンのキーワードへのプロセス
5. 「つかう中津川」が目指すイメージ

参考データ

1. 中心市街地まちづくりビジョン策定の背景



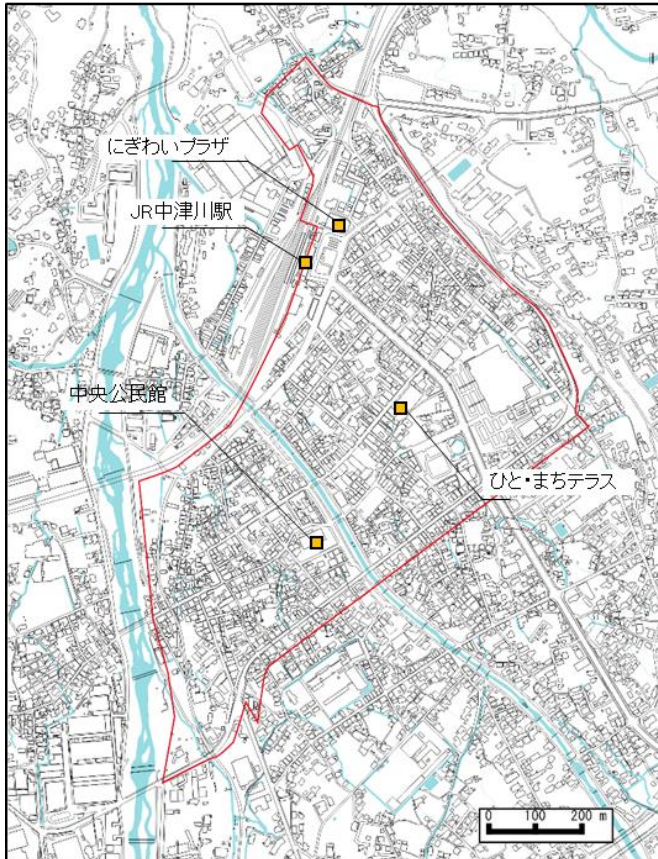
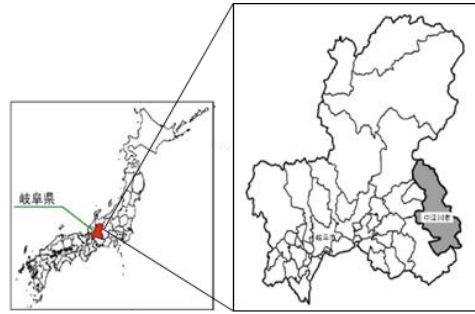
中津川市の中心市街地地区について



<概要>

・位置: 左の地図赤枠内(約57.5ha)

(中津川市えびす町、太田町、栄町、昭和町、新町、西宮町、本町、淀川町)



江戸時代の中山道中津川宿の様子が描かれた絵図。中津川宿は江戸～京都間の街道の宿場町として栄え、たくさんのひと・モノが行き来することで様々な文化、産業を発展させてきました。この中津川宿を起点に、現在の中心市街地が形成されていきました。



昭和40年代の中津川駅周辺の風景。明治時代に開業した駅を中心に新たな商業エリアが形成され、にぎわっていました。この後、昭和50年ごろに駅前再開発事業が行われ、現在の中津川駅前の形になっていきます。



中心市街地まちづくりビジョン(以下、ビジョン)について

- このビジョンは、令和6年度(2024年)から10年間の、中心市街地地区(まちなか)のまちづくりの方向性を示すものです。
- まちなかには、令和5年度(2023年)に交流、学び、にぎわいの拠点「**中津川市ひと・まちテラス**」ができ、**新たな段階を迎えます。**
- 人口の減少、空き物件の増加、商業機能の衰退など多くの課題がある中で、まちなかは中津川市の都市拠点として、**商業活動だけでなく文化や市民活動、観光、交通の拠点など様々な役割が求められています。**
- こうした中で、よりよいまちをつくるために「**行政と民間がともに同じ未来を描けるようなビジョン**」を、策定することとしました。

2. ビジョン策定に向けた取組み





ビジョン作成にあたって

行政だけで作らない

- 関係団体や民間も交えた会議で作っていく
東京工業大学真野研究室、UR都市機構中部支社が策定に協力

行政内部でビジョンを共有する

- 複数の部署が策定当初から参画し、策定に関わる

自分事化する

- まちの将来を担う若手が策定の主体を担う
ヒアリングやワークショップ等の機会を通し、様々な民間事業者に関わってもらう

これまでの取り組み



策定するビジョンを、多くの方に「自分事」として捉えていただけるようにするには・・・

まちの現状、まちに関わる方のリアルな思いに沿って検討を行うことで、多くの方に共感してもらい、ビジョンを自身に関係のあるものと捉えてもらう。



- ① まちのこれまでの「知る」
- ② まちの今を「聞く」
- ③ まちのデータを「集める」
- ④ ①～③を行ったうえで、これからを「考える」

これまでの取り組み



① まちのこれまでを「知る」

宿場町として栄えたまちの過去や、近年の商店街の取り組み、まちの変化などについて学ぶため、勉強会やまち歩きを実施。

② まちの今を「聞く」

まちなかや中津川市への思いについてヒアリングを実施。
(23業者・5地元区長から聞き取り)

- ・まちなかに住んでいる方、事業をされてきた方
- ・まちなかでまちづくりを進めてきた方
- ・近年事業を行なっている若手事業者の方
- ・中津川市内で新しい取り組みを始めようとしている方



これまでの取り組み



③データを「集める」

基本的な統計情報データの収集のほか、市民意識調査や商店街アンケート調査など、各種データを分析。

東京工業大学の企画でまちに対する思いを集める

「旗さしワークショップ」を実施し、広くまちなかに対する市民意識を調査。

(ルビットタウン・にぎわいプラザ・中央図書館・都市緑地公園で実施。調査数215名)

④これからを「考える」

これまで学んだまちの歴史、ヒアリングやワークショップ等の結果を踏まえ、今後のまちなかが目指すべき方向性を議論。

・策定作業部会 9回 ・事務局会議 14回



これまでの取り組み

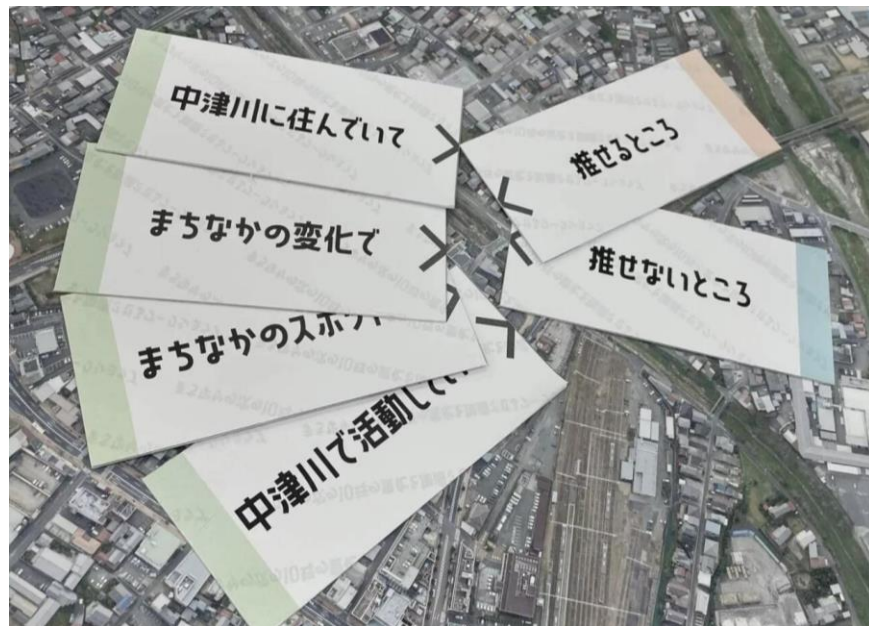


■市民参加型ワークショップについて

③のデータ収集の為、東京工業大学真野研究室と協働し、市民参加型のワークショップを開催。

まちなかに対する印象や思い、どんな課題があるかをみんなで考え、どんなアクションをしていくかを3度のワークショップを通し検討した。（参加者は延べ55名）

参加者はまちなか内外の事業者のほか、学生、商店街関係者、住民と多岐に渡る。



ワークショップで出た意見(いいところ)

高校まで川で遊んでいた。他の地域にはない良い場所。

四ツ目川と中津川。中山道の雰囲気に合わせて河川敷に夜屋台があると◎

ルビットタウンから駅に向かう途中、小道が多くて面白い。

道路に必ず水路があり、それぞれに物語がある。

本町が好き。県外の人を必ず連れていく。

高校時代、チキンハウスやジャパレンで遊んだ。商店街の道が非常に良い。

ルビットを少し越えた場所からは苗木城も見えて、振り返るときれいな山がある。



おしゃれなカフェが増えてきた。作業ができるのが良い。

街あるきができるようになれば、面白くなりそう。

中山道と昭和がうまく混ざって残っている。沿線の建物がとても魅力的。

新しい図書館が新町にできて子育てしやすいまちへと変化している気がする。

ワークショップで出た意見(わるいところ)

飲食店がないと、人や事業者とつながる拠点がなくなってしまふ。

駅におりたった時、まったく中津川らしさを感じることができない。

こどもと時間をつぶせる場所がない。公園があっても芝生と遊具だけでは無理。

ルビットタウンとその向かいの公園くらい。他は過ごす場所がない。

とにかく駐車場がない。イベントも駐車場がないと開催が難しい。

大正の蔵はもっと資料もあると思うので、入りやすくしてほしい。

町全体のブランディングがなく、「ここ面白そう」と思わせることが必要。

「あぶない」との理由で、川遊びができなくなってしまったことが残念。

栗の季節はそれなりに人がいるが、それ以外の季節は人があまりいない印象。

お店の数も種類も少ない。もう少し増えないと、外部から来た時に厳しいと思う。

良いところはたくさんあるが、分散していて全部を見て回るのは大変だと思う。



3. 取組みから見えてきたこと



ヒアリングと市民アンケートから



- ヒアリングやワークショップにおいては、**大規模開発によるチェーン店舗誘致に頼らず、中津川にしかない歴史や文化、魅力的な人達や環境で勝負していくべき**という意見が共通して出てきた。
- 一方で、市民意識調査や高校生アンケート等においては**大手のチェーン店舗の立地を望む声**が多数ある。(P42・P43参照)



まちなかに関わる人と利用する市民の間にある
「相違」

見えてきた「相違」に対する考え方



- 商域（人口規模）は市域の枠にとらわれず考える時代となっている。まちなかの位置づけは**近隣他市やリニア駅周辺も含めて考える必要**がある。
- 同じ商域にすでにあるチェーン店舗を呼び込むことは一時的に市民ニーズを満たすかもしれないが、**同じ商域のお客さんを分散させるだけ**になる可能性が高い。
- リニア中央新幹線が通る中津川市においては、日常生活に必要なチェーン店舗だけでなく、**広い圏域から集客を狙えるような独自性のあるものを伸ばしていく**必要がある。

**ここにしかないものを伸ばしていくことが、
まちなかの価値向上につながる**



取組みから見たまちの「強み・資源」

- 中津川のまちなかには**本物の歴史を伝える資源や路地、街並み**が残されており、これらは**他のまちや観光地にはない特別なもの**。
- **山の風景や水辺、川など、きれいでよい雰囲気**であり、こうした空間を使って色んな活動をしていける余地がある。
- まちに魅力を感じ店を構える若い世代やイベント出店者も多く、**何かをやってみたいと思っている**個人事業主が中津川市には多くいる。
- **自分に合った生き方、仕事とライフスタイルの充実などの暮らしを豊かにして**いけるような**環境がある**。

取組みから見たまちの「弱み・問題」



- 市民のまちなかの来訪目的の多くがルビットタウンに限定されており、**まちなかの店舗や歴史的資源に価値が見出されていない。**
- 新たに出店した店舗も**大きく稼ぐということは不可能**だと明言しており、商業エリアとしての印象を改めていく必要がある。
- これまで市民生活を支えてきたまちなかの日用品店舗は商売が成立しなくなってきており、**事業主の多くは将来的な継続意思がない。**
- 中山道や狭い通りを車が多く通っており、**歩きたいと思うような空間になっていない。**
- **お店のバリエーションが少なく、楽しみたいと思うようなまちになっていない。**

取組みから見たことのまとめ



1. ここにしかない、中津川だけの本物を追求していくまち

- ・どこにでもあるような店舗の誘致はしない。
- ・古い町並みや建物をまちの資源として「意識して」残し活用することでエリア価値を高める。(リノベーション)

2. 豊かな暮らし、コミュニティ、人のつながりが見えるまち (まちなか居住)

- ・自分の生き方や家族のライフスタイルとやりたいことが「両立」できる。

3. まちなかに点在する資源や魅力に直接触れられる、歩いて回れるまち

- ・きれいな水辺、水路や路地、公園などの空間を活用し、体験や学びの場をつくる。
- ・インバウンドや都市部の人に移り住みたくなるような暮らしのシーン、風景を創出する。

4. チャレンジする人を応援する、学びの場や挑戦の場のあるまち

- ・新たな人やコンテンツを呼び込む(育成する)仕組みを作る。

5. 中津川駅前を観光のハブとし、まちなかを含めた観光の出発点へ

- ・まちなかの資源を活用した、観光など「非日常」的なサービスも展開。

4. ビジョンのキーワードへのプロセス





ビジョンの目的の再確認

これまでの考え方：「活性化するためのビジョン」



「今ある資源をまちの魅力として位置づけ、これからの10年でそれを守り育て、中津川ならではのまちをつくっていくためのビジョン」

「スクラップ&ビルド」ではなく、今あるまちの資源を「あえて残し、よりよく使う」ことで、まちなかの価値を高めていく。

まちなかにある「資源」



中山道中津川宿のエリアは景観が整備され、趣ある建物がよくある



まちの各所に風情ある路地が隠れている



昭和レトロな街並みは、古い町並みとは別の趣がある

まちの中心を流れる四ツ目川は、まちなかで水や自然を感じられるスポット



公園や複合商業施設など、暮らしに必要な施設が集まっている



古い建物を活用しリノベーションしてオープンしたカフェやゲストハウスなどは、新たな魅力になりつつある



まちの魅力となりうる「資源」はある。しかし…
その多くが使われていない。なぜ？



ヒアリング等から聞こえてきたみんなの声

使いづらい・使えるかわからない

どれだけ魅力的な「資源（魅力）」があっても、それを使わなければ光り輝かない。
では、まちを使ってどうしていくか？ だれが使うのか？

どんな風につかいたいのか？



- 子どもを持つ親御さんからの意見
まちに子どもたちの姿がない。**子どもを遊ばせられるようなまち**であってほしい。
- まちで活動する大学生の意見
カフェなど、落ち着けるお店ができて嬉しい。もっとそういう**お店や若い人が集まれるような居場所が増えて**ほしい。
- まちなかで出店したいと思っている事業者の意見
まちなかで出店するにあたって、**どこで出店できるか、何か手続きが必要なのかということ**がわからない。
- まちで暮らしていてまちをよく知る人の意見
古い街並みや古民家などを残すために使っていきたい、このまちには**本物の歴史を伝える資源やストーリーが残っている**。
- まちで活動する事業者の意見
いい場所はあるけど、道が細くて車も多く、**歩きにくい**のが残念。
- 市外から来る事業者の方の意見
駅前がまちの雰囲気を表していない。歴史あるまちかもしれないが、駅前からそれが感じられない。**どこにでもあるようなもの**になってしまっている。

▶ **それぞれの暮らし、ニーズに合わせてまちをつかうことが、ここにしかないまちにつながる。**

みんなのビジョン

行政と民間が一緒にまちを使って、豊かな暮らしの風景をつくっていく。
その積み重ねが「ここにしかないまち」になる。





つかう 中津川

～ みんなが「つかう」ことで、「ここにしかないまち」になる ～

こどものワクワクのために「つかう」

学生の学びのために「つかう」

新しく事業を始めるために「つかう」

中山道を新たな価値創造のために「つかう」

楽しくまちを歩くために「つかう」

まちの「玄関・ロビー」としておもてなしのために「つかう」

個別・具体的な事業

(例) 公共空間活用事業

アクションプラン

ビジョンを実現させるための
個別・具体的な事業計画

※R5年度に策定し、2年を
目途に見直し、更新する

5. 「つかう中津川」が目指すイメージ



目指すイメージ



こどものワクワクのために「つかう」

まちなかを、親子で過ごしやすいワクワクできる場所にしていきます。ひと・まちテラスをはじめ、公園や広場、河川、時にはまちなか全体を使って、親子に遊びと体験の機会をつくります。



<例えばこんなこと>

- 公園や広場、河川などの公共空間を、民間事業者が自主的に使って活動ができるよう、規制緩和やルールの設定。必要な設備の整備。 など

目指すイメージ



学生の学びのために「つかう」

まちなかを、学生が学びの機会を得る居場所にします。まちをつかって学び、学生とまちが共に成長する場所にすることで、常に新しい視点を持ち続け、変化していくことができます。



<例えばこんなこと>

- ひと・まちテラスやcoagariなど、域学連携拠点を中心とする域学事業の推進。
- 学生の体験学習ができる場所として、公園や河川敷の活用。 など

目指すイメージ



新しく事業を始めるために「つかう」

まちなかを、挑戦者を応援し育てる場所にします。使いやすいまちなかを作り、リノベーションやスタートアップ等のサポートを行うことで、皆さんのビジネスやライフスタイルにインパクトを与えます。



<例えばこんなこと>

- 空き家や空き店舗を活用した、新たな事業の展開を促進させる制度の創設、セミナーの開催。
- 味や技術など、目には見えない独自資源の承継推進。 など

目指すイメージ



中山道を新たな価値創造のために「つかう」

先人たちが使ってきたまちなかを、時代に合わせて使うことで磨きあげます。中山道沿いにある歴史・文化・街並みを使って、ここにしかないモノを受け継ぎ、次に繋げていきます。



<例えばこんなこと>

- 古いまちなみ・建物の保全を図るだけでなく、民間も活用することができるように規制緩和や必要な支援策の構築。今ある店舗の強みを伸ばす取組の支援。
- 歴史・文化・街並みを活用した新たなブランディング。 など

目指すイメージ



楽しくまちを歩くために「つかう」

まちなかを、歩きやすく住みやすくします。居住や観光において、歩きやすいまちにすることでたくさんの人を集めます。人が集まることでそこに新たな楽しみがまた生まれます。



<例えばこんなこと>

- まちなかにある魅力的な資源まで、歩いてたどりつける案内マップやサインの整備。
- ウォーカブルなまちなかとなるためのインフラ整備やルールの設定。 など

目指すイメージ



まちの「玄関・ロビー」としておもてなしのために「つかう」

まちなかを、人が行き交う場所にします。駅前はまちにとっての玄関・ロビーのような場所です。まちの雰囲気伝え、行き交う人に優しく、おもてなしのできる場所にします。



<例えばこんなこと>

- にぎわいプラザ跡地の活用方法、駅前広場を含めた中津川らしさを表現できる方法の検討。駅前からまちなかまでの動線形成のための、案内マップやサインの整備。
- 駅前広場を活用したイベントの開催。 など

ビジョンの実現を図る指標の考え方



①市民がまちなかを「使った」数

(市民活動数、施設入込客数、歩行者数など)

②まちなかに対する思い(満足度)の変化

(アンケート、市民意識調査など)

⇒それぞれの「柱」ごとに、検証できる指標の設定

(指標及び目標数値は、具体的な検証方策を含めてアクションプラン策定時に設定)

柱	使った数	満足度の変化
こどものワクワクのために「つかう」	市民活動数・施設入込客数	(アンケート)
学生の学びのために「つかう」	域学連携事業数・参加者数	(アンケート)
新しく事業を始めるために「つかう」	新規創業者数・空き店舗数	(アンケート)
中山道を新たな価値創造のために「つかう」	-	市民意識調査
楽しくまちを歩くために「つかう」	歩行者通行量	(アンケート)
まちの「玄関・ロビー」としておもてなしのために「つかう」	-	市民意識調査

行政と民間が一緒にまちを「つかう」



民間

= まちを使って、様々な活動をする
(まちの**コンテンツ**を担う)

行政

= 民間が使いづらいと感じているまちを使いやすく
なるよう**ルール作り**や**整備**を担う

一緒に「まちをつかう」 = 官民連携のまちづくり

<付録> ビジョン策定に協力いただいた方々・スタッフ

※順不同・敬称略

<策定会議委員>

・渡辺 卓 ・勝野 安和 ・長谷川 暢之 ・岩木 健 ・前田 雅生 ・段 厚美 ・田中 三雄 ・原 利浩 ・小椋 匡敏
・張山 知宏

<策定作業部会員>

・小嶋 康修 ・丹羽 悠 ・田口 亮太 ・小栗 康太郎 ・谷口 真二郎 ・安藤 嘉之 ・河合 一輝 ・大島 友香
・吉田 真唯子 ・柴田 祐希 ・大山 徹 ・金澤 一紀

<ヒアリング協力者>

・鈴木 若葉 ・前田 一輝 ・原 峻祐 ・原 朋也 ・三尾 泰一郎 ・板頭 和彦 ・柴田 郷史 ・岩澤 友洋 ・西岡 孝司
・鈴木 貴実隆 ・大鋸 伸行 ・寺畑 英徳 ・荒井 幹広 ・林 公康 ・吉田 ひな子 ・松井 倫子 ・古井 千景 ・柄澤 一樹
・小池 菜摘 ・勝野 安和 ・成瀬 博明 ・梅村 篤史 ・小栗 祐治 ・田口 正明 ・田中 雅得 ・岩本 隆明 ・酒井 健一
・小木曾 源三 ・篠原 一美 ・中川 実 ・西野 安武

<ワークショップ参加者>

・鈴木 若葉 ・前田 一輝 ・原 峻祐 ・原 朋也 ・荒井 幹広 ・田中 三雄 ・吉田 ひな子 ・松井 倫子 ・舟橋 拓児
・小加部 遥姫 ・桂川 大誉 ・向原 拓哉 ・亀割 卓 ・伊藤 来 ・柄澤 一樹 ・青木 恵里華 ・武川 治宏 ・浮州 和典
・吉田 奈美 ・林 陽生 ・横井 千恵 ・松川 久子 ・林 克 ・原田 裕太 ・久保 顕介 ・池本 誠一 ・堀口 敏明

<策定協力事業者>

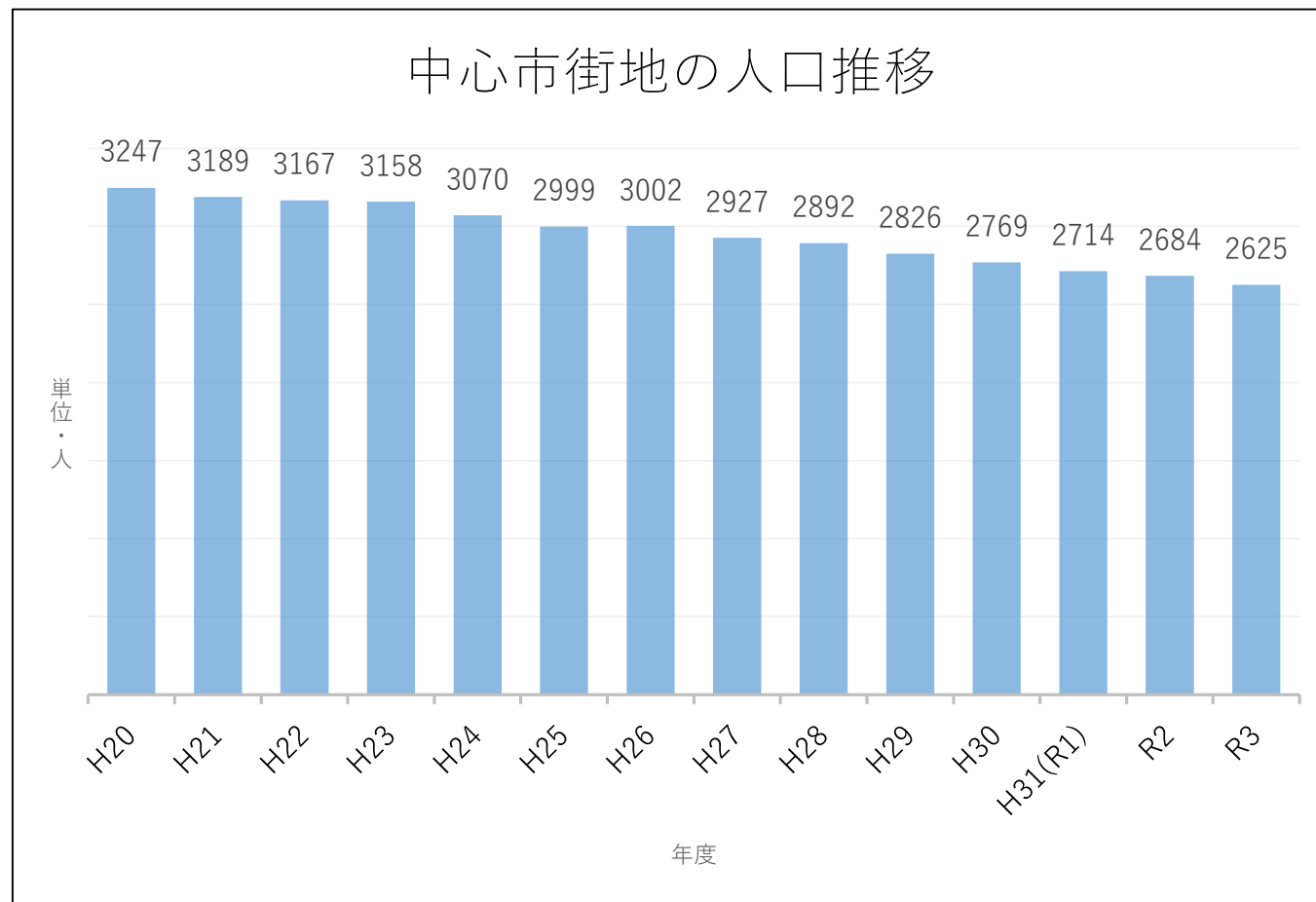
・(一社)ヒガシミノ団地 ・東京工業大学真野研究室 ・(株)まちなかラボ ・(独)都市再生機構中部支社

<事務局>

・丹羽 栄作 ・土屋 敦

参考データ

中心市街地の人口推移

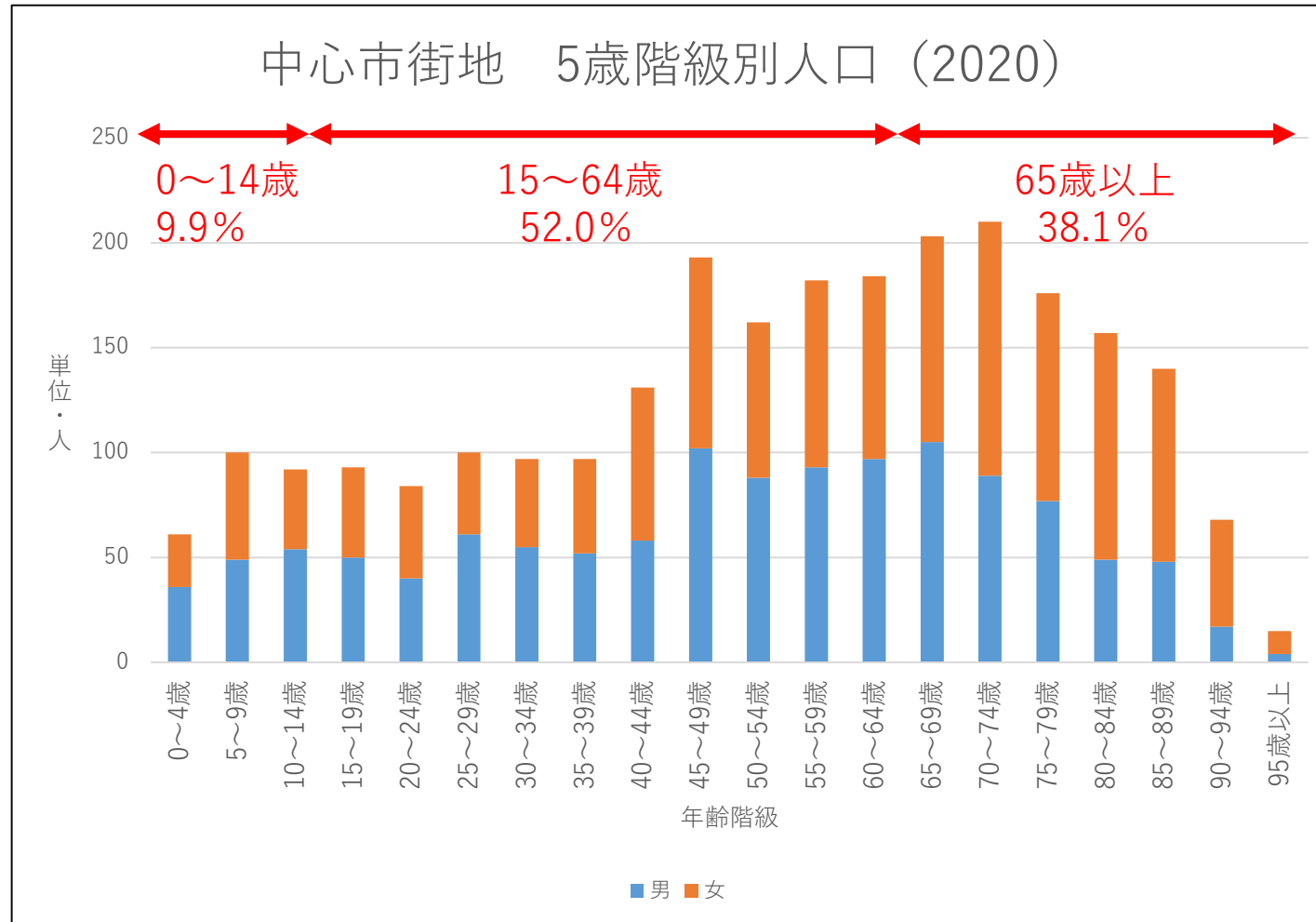


- ・ 中心市街地の人口は年々減少傾向。
- ・ 10年人口減少率(H23→R3)
市全体：約8%
中心市街地：約17%
と中心部の人口減少が進行している。

※中心市街地の13地区合計（えびす町、太田町、栄町、昭和町、新町、西宮町、本町、淀川町）

（中津川市住民基本台帳情報より作成）

中心市街地の人口構成

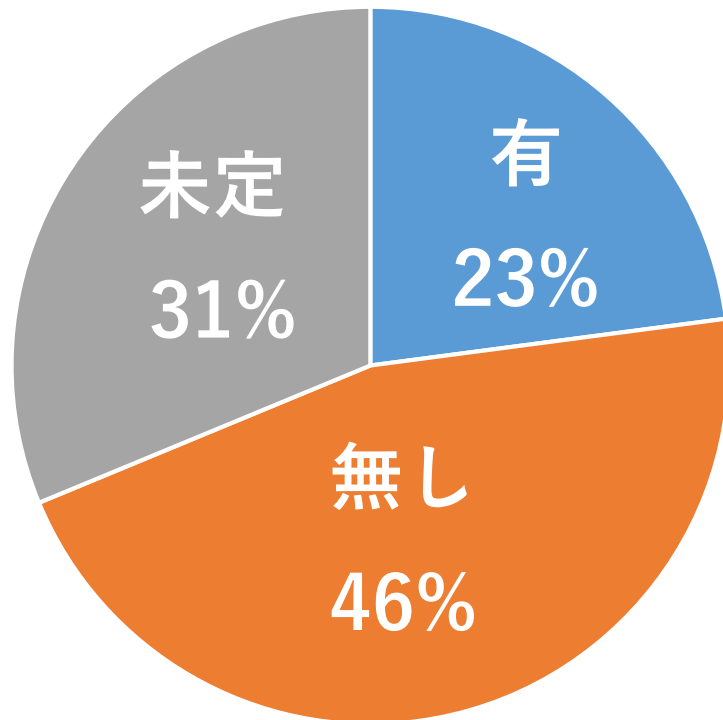


- 人口のボリュームゾーンは65～74歳。
- 市全体への高齢者割合が約33%に対し、中心市街地は約38%と高齢化率は高い状況にある。
- 20年後は40～59歳ゾーンが高齢者となり、高齢化がさらに進む。

(R2国勢調査より作成)

中心市街地内店舗の後継者調査（商店街アンケート）

後継者の有無



- 後継者有
- 後継者無し
- 後継者未定

- 後継者無し、と答えた事業者は「自分がやれるだけやる」と答えた方がほとんど。
- 事業者の平均年齢は61.3歳
- 64%の店舗が住居併用
- 後継者不在の事業者で閉店後貸し出し可能と答えた事業者は30%

(R4.4～6中心市街地後継者調査より)

市民意識調査（自由意見）

- ・ カテゴリ：産業振興/商業振興 施策に対する自由意見数
66件/599件（11.2%）

うち、中心市街地について言及された意見 12件/66件（18.2%）

<主な意見（抜粋）>

- ・ イオンモールなどの全国的な大型商業施設がほしい
- ・ レジャー施設や映画館など、若い人が遊べる娯楽施設がほしい
- ・ 恵那市のような便利なまちにしてほしい
- ・ まちなかは活気がない（暗い・空き店舗等が多い）

（R4市民意識調査結果より）

高校生アンケート結果（自由意見）

< 中津川市のいいところ（主な意見） >

- ・ 自然豊かで環境がいい
- ・ 人があたたかく、親しみやすい
- ・ 治安が良く、住みやすい
- ・ 和菓子、栗きんとんなど美味しいものがある

< 中津川市の悪いところ（主な意見） >

- ・ 映画館やショッピングモールがほしい
- ・ 娯楽施設がない、遊ぶところを増やしてほしい
- ・ 店が少ない
- ・ 交通の便が悪い

（R3高校生アンケートより）

行政としてのビジョンの位置づけ

中津川市リニアのまちづくりビジョン(H25年8月策定)

中津川市リニアを活用したまちづくり構想(R1年7月策定)

- リニア駅周辺のまちづくり
- 中心市街地の活性化→**歴史文化資源**を活用した市街地の計画的な整備
→市街地再生(リノベーションによる街並み再整備)など
- 市域全体をつなぐ観光振興

中津川市中心市街地まちづくりビジョン

関連計画と方向性の一致



市民参加型ワークショップ 「まちなかの次の10年の変化を加速させるワークショップ」

まちなかの次の10年の変化を加速させるワークショップ



あなたと中津川駅まわりの市街地のこれからをつくる

中津川駅横にぎわいプラザ 4階
19:00 第1回 10/24 mon
21:00

第2回 11月
第3回 12月

シェアする 教えて！あなたの「まちなかでのあんなことやこんなこと」	考える 私なら！「まちなかでこれをする」	叶える そのために「〇〇からはじめる」
--------------------------------------	-------------------------	------------------------

中津川駅まわりの市街地をどんなまちにしたいか、自分がその時役をしてほしいのかを、みんなで話し合いながら考えていくワークショップです。

募集 少しでも何か変化を中津川駅まわりの市街地に望んでいる方ならどなたでも大歓迎。

概要 現在、中津川駅まわりの市街地で活動していて感じていることなど、リアルな声を他の市民と共有します。共通点や糸口が見えてくるかもしれません！

#中津川市中心市街地活性化ビジョン策定について

中津川市では現在、まちなかを活性化するための新しい計画を策定中です。市民の皆様のご意見を聞き入れ、より良い計画にしていけるための企画を実行していきます。本ワークショップはその一環で、次の10年のアクションの参考にしていきます。



企画・協力：東京工業大学真野研究室 中津川市
一般社団法人ヒガシミノ団地

問い合わせ
中津川市商業振興課 0573-66-1111(内線 4266・4267)

- ・ **第1回 (R4.10.24) 19名参加**
内容：教えて！あなたの思う
「まちなかでのあんなことやこんなこと」
- ・ **第2回 (R4.11.26) 19名参加**
内容：私なら！「まちなかでこれをする」
- ・ **第3回 (R4.12.16) 17名参加**
内容：そのために「〇〇からはじめる」

Tocostagram

みんな普段どこにいる？

まちなかで皆さんの**お気に入りの場所**はどこですか？
あなたの**とおきの場所**をシェアしてください！
皆さんの居場所は展示する地図の上に反映されていきます。

Step1 年齢を教えてください

Step2 よく訪れるお気に入りの場所

Step3 何をしている？なぜお気に入り？

Step4 居住地・訪れる日時をハッシュタグ#で教えてください

Step5 他の投稿にいいねシールを貼ってください



The screenshot shows a post on the Tocostagram app. The user is 'manolab' and the location is '都市緑地公園' (Urban Green Space Park). The post content includes: 'いつもなにしてる？ 友達とよく会っておしゃべり。', '屋根があるし、芝生がきれいだから他の公園よりお気に入り!!', and 'いいね! mottoximoto, 他 100人'. The location is '中津川本町' and the time is '休日 夕方'. There are 10 'いいね!' (likes) and a 'manolab' profile picture.

中心市街地活性化ビジョン策定について

中津川市では現在、まちなかを活性化するための新しい計画を策定中です。それに伴い、市民の皆様のニーズを取り入れ、より良い計画にしていくための企画を実行していきます。



○調査日時

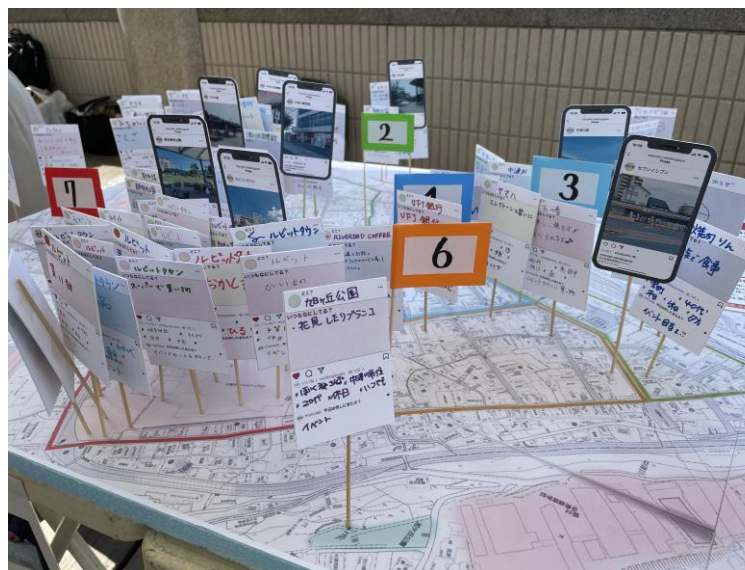
5/7,9/11,10/15 都市緑地公園
5月~8月 にぎわいプラザに設置
12月 ルビットタウンに設置
12月~1月 中津川市立図書館設置

○目的

中心市街地の潜在的ニーズや利用状況を把握する
パブリックに行うことで、不特定多数の一般市民の声を集める

○調査方法

アナログ版Instagram旗にお気に入りの場所を記入してもらい、地図にさしてもらおう (左図参照)



○調査数

計 215名

○調査対象者

中津川中心市街地の住民及び来街者



旗差しワークショップ結果・エリア別分析

(東京工業大学 真野研究室)

駅前エリア 17旗

駅前北側は印象がいいが、南側（赤煉瓦）は何もない。

太田町エリア 2旗

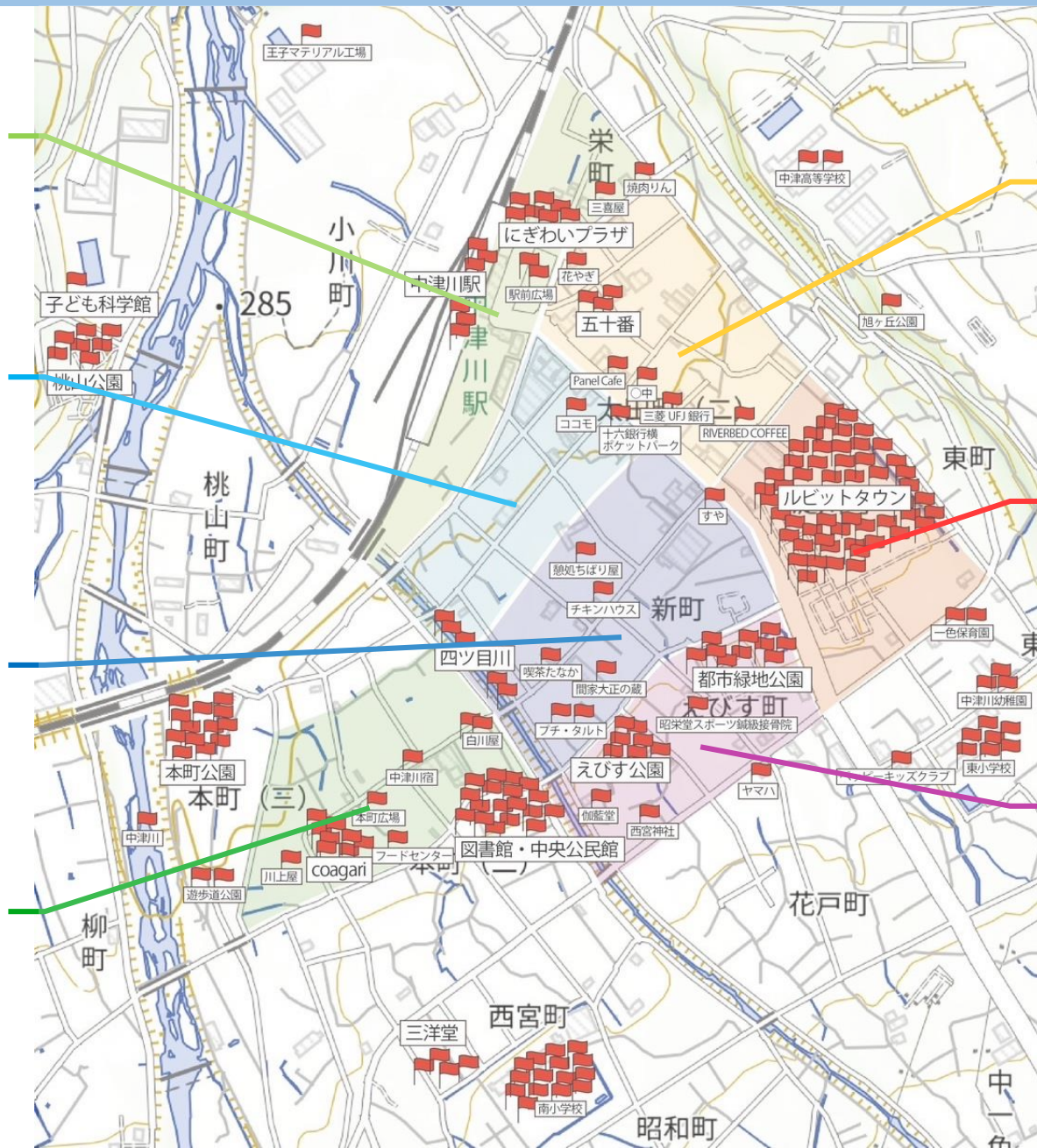
レジストロ通り沿いに2側ささっているのみで、極端に旗が少なく印象が薄い。

新町エリア 7旗

新町商店街があるはずだが、旗が少ない。

本町エリア 14旗

旧中山道沿いに、バランスよくスポットがある。



栄町エリア 8旗

大人気とはいかないが、お店がある場所にはしっかり旗がささっている。

淀川町エリア 52旗

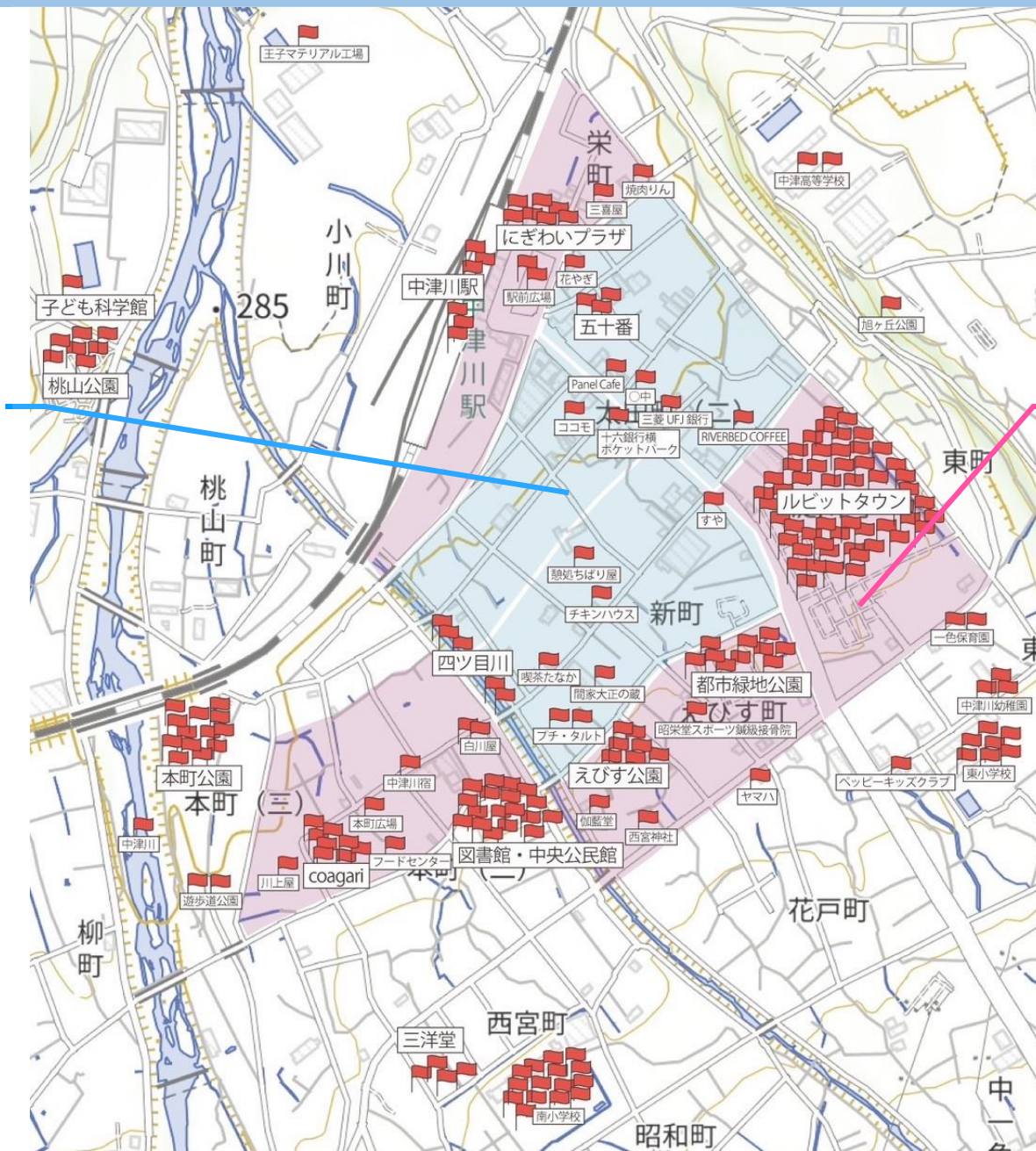
ルビットタウンに圧倒的に旗が集まっている。

えびす町エリア 20旗

公園を中心に旗が集まり、若い世代に人気。

人通りが少ないエリア

個人のお店は多く、コンテンツがないわけではないが、周辺に比べて旗が少なかった。



人が集まるエリア

ルビットタウンを筆頭に、求心力のあるスポットが点在しており、そこに旗が集まった。